

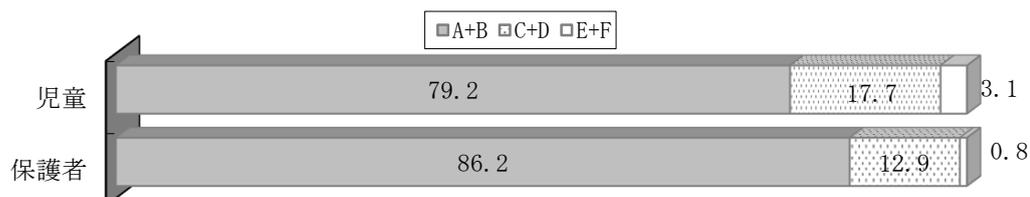
# 令和2年度 学校教育自己診断 小学校（共通項目）

## 1. 学校の生活について

児童 学校へ行くのが楽しい。

保護者 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない E:わからない F:無回答



### 〔分析〕

前年度比:児童+3.4%、保護者+1.0%

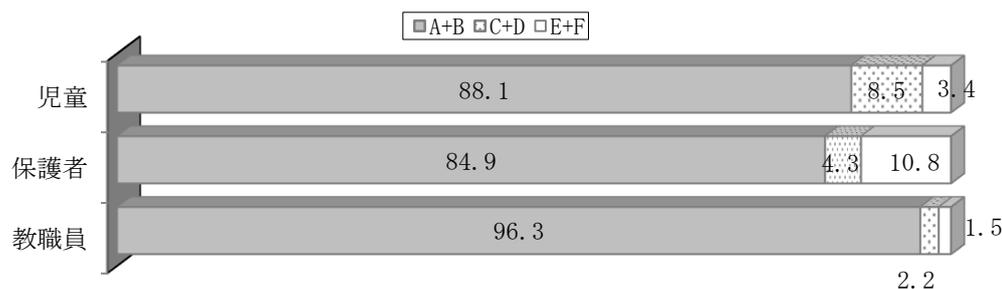
前年度と比較して、児童と保護者の肯定的な回答が増加した。これは、各学校での学級力向上の取組が継続している成果と考えられる。しかし、2割程度の児童・保護者は否定的な回答もあることから、今後も引き続き、全ての児童が安心して過ごせるよう、子ども自身がより主体的に活動できる授業づくり、また安心して居場所づくりに取り組むとともに、学校と保護者が連携し、児童をより深く理解することが求められる。

## 2. 「確かな学力」の育成について

児童 授業は、わかりやすい。

保護者 先生は、授業がわかりやすいように工夫しているようだ。

教職員 学校では、常にわかりやすい授業をめざして工夫改善を図っている。



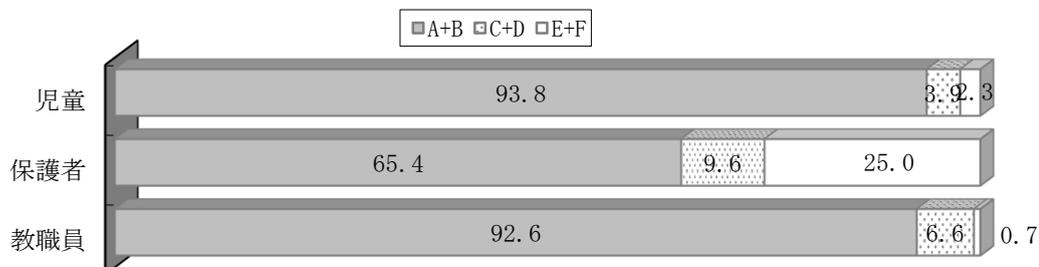
### 〔分析〕

前年度比:児童+4.4%、保護者-2.8%、教職員-1.4%

児童の肯定的意見は増加し、保護者・教職員の肯定的意見は微減したが、高い数値を保っている。今後も、各学校における校内研究や研修による授業改善を日々実践し、引き続き児童の関心・意欲を高める授業をめざさなければならない。また、教職員の肯定的な回答と保護者との回答結果にやや差があることから、今後も「開かれた学校」をめざし、教職員の意図する授業づくりの視点について、発信していくことも求められる。

### 3. ICTの活用について

- 児童 先生は、コンピュータやプロジェクターを使って授業している。  
 保護者 学校は、ICT機器(コンピュータやプロジェクター等)を使ったわかりやすい授業を行っている。  
 教職員 学校では、ICT機器(コンピュータやプロジェクター等)を使った授業づくりを推進している。



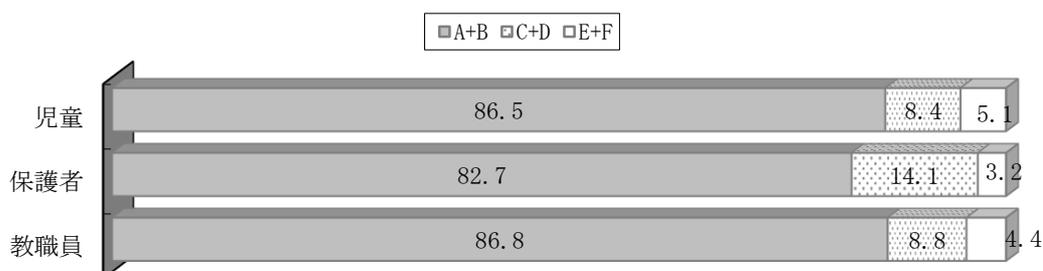
#### [分析]

前年度比:児童+5.4%、保護者-3.0%、教職員+0.4%

児童・教職員の肯定的意見が90%を超えており高い数値となっている。一方で、保護者の肯定的な意見は65%であり、数値の差が大きい回答結果となっている。高度情報化社会の中で、令和3年4月から生徒1人1台のタブレットPC環境が整うため、主体的・対話的で深い学びを実現するために、今後の教育現場においてICTを活用した授業改善が求められる。また、保護者の回答結果の「わからない」と回答している割合が25.0%と高い数値になっている。学校だより、ホームページなどによる情報発信などが必要だと考える。

### 4. 学校の通知表について

- 児童 通知表の内容は、納得できる。  
 保護者 通知表は、よくわかる。  
 教職員 学校の通知表は、児童・保護者にわかりやすく、適切な評価が行われている。



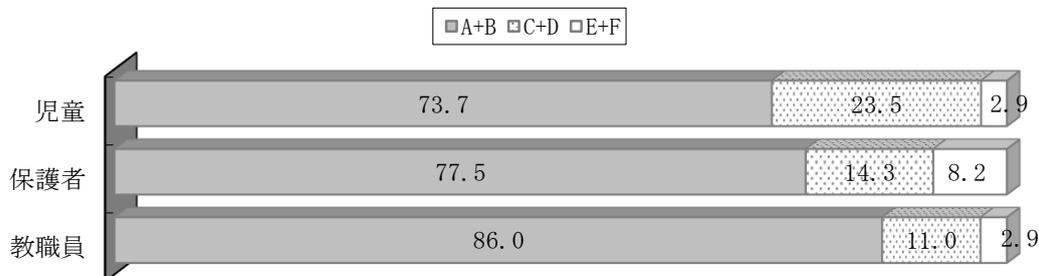
#### [分析]

前年度比:児童+4.0%、保護者+1.3%、教職員-4.6%

三者ともいずれも高い肯定的意見の割合となっている。これは、教職員が評価を見据えた授業づくりの観点を導入し、日々実践している成果と考えられる。通知表の評価については、令和2年度から実施されている新学習指導要領に対応するため、児童自身が学習の成果と課題を見つめ直すきっかけとなり、また、保護者に対しては、学校への信頼や協力を得る手がかりとしての機能となるよう、妥当性・信頼性を高められるように、準備し、情報発信してきた成果であると考えられる。

## 5. 家庭学習について

児童 家では、自ら進んで学習(宿題、予習・復習、自主学習など)している。  
 保護者 学校は、家庭学習の習慣がつくよう取組を行っている。  
 教職員 学校では、家庭学習の充実に向けて、家庭と連携するなど、重点的に行っている。



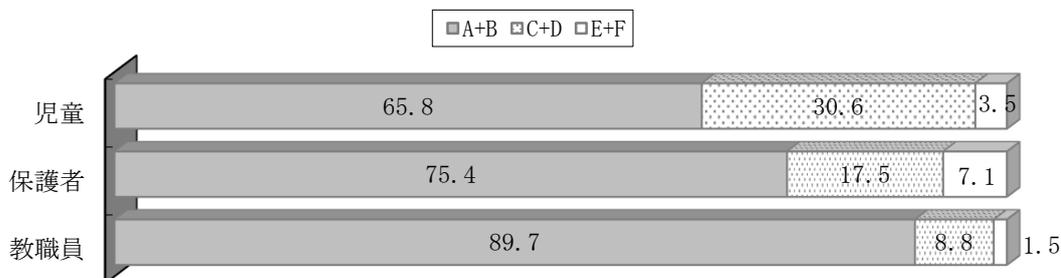
### [分析]

前年度比:児童+4.0%、保護者±0.0%、教職員-4.6%

児童の肯定的回答結果が昨年度から増加しており、昨年度肯定的な回答が大幅な減少となっていたが、各校で家庭学習の仕方や出題の仕方などに工夫した結果だと考える。今後も、家庭で自らが学習を行えるやり方などから丁寧に指導していくなどが必要である。一方で、保護者の肯定的回答については、予習に視点をあてた宿題や放課後学習支援の成果もあり、割合が高くなっていると考えられる。また、教職員と児童・保護者の意識の差を小さくする取組や工夫も必要である。

## 6. 読書習慣について

児童 読書をよくする。(マンガ以外の)  
 保護者 学校は、子どもに読書の習慣がつくよう指導してくれている。  
 教職員 学校では、子どもの読書習慣の定着に向けた取組を、重点的に行っている。



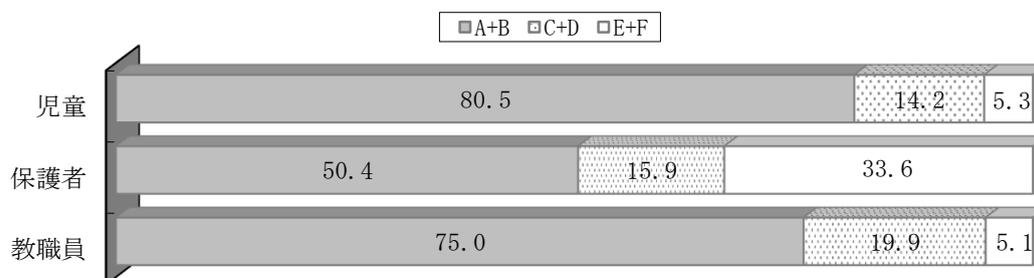
### [分析]

前年度比:児童-0.2%、保護者-3.3%、教職員+0.6%

児童の肯定的回答が低い。学校図書館専任職員と授業を行う教職員とが連携し、授業での活用など、読書活動の推進が必要であると考え。町を挙げて読書活動に力を入れていることを、地域や保護者にも積極的に発信していく必要がある。今後も継続して、読書指導につながる授業づくり、家庭読書の推進等の取組を充実させていくことが求められる。

## 7. キャリア教育について

児童 学校では、自分らしく生きることや、将来について考える機会がある。  
 保護者 学校は、学年に応じて、子どもが生き方や将来について、考えられるような指導(キャリア教育)を行っている。  
 教職員 学校では、児童が自己の生き方を見つけられるよう、各学年に応じた系統的なキャリア教育を行っている。



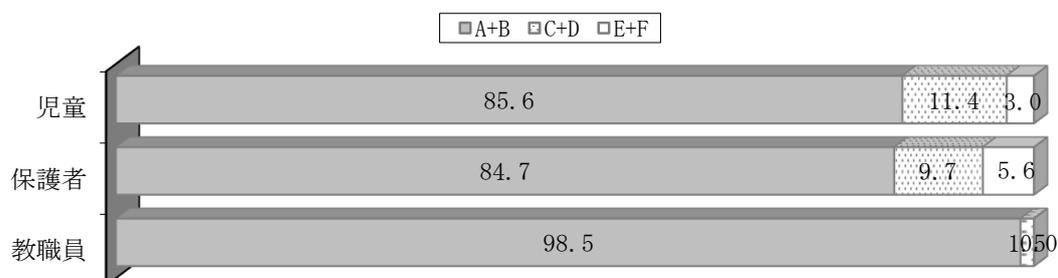
### [分析]

前年度比:児童+9.4%、保護者-5.8%、教職員+1.6%

児童と教職員の肯定的回答が一定数あることは、総合学習や道徳等、自分らしく生きることについて考える取組の成果が表れていると考えられる。教職員に関しても、キャリア教育に対する意識を、児童自身の自己肯定感や自尊感情の醸成に重点を置き、あらゆる教育場面において展開しないとけない。保護者の「わからない」の回答が33.6%あることについて、キャリアパスポートを活用し、児童が主体的に自己実現に向かって将来を描く力の土台を形成していくことが、保護者への発信にもつながると考えられる。

## 8. 「心の教育」や規範意識の育成について

児童 学校は、人に対する思いやりやルールの大切さについて教えてくれる。  
 保護者 子どもは、人権の大切さや社会のルールについて、わかっていると思う。  
 教職員 学校は、人権の大切さや社会のルールについて、身につけるよう指導している。



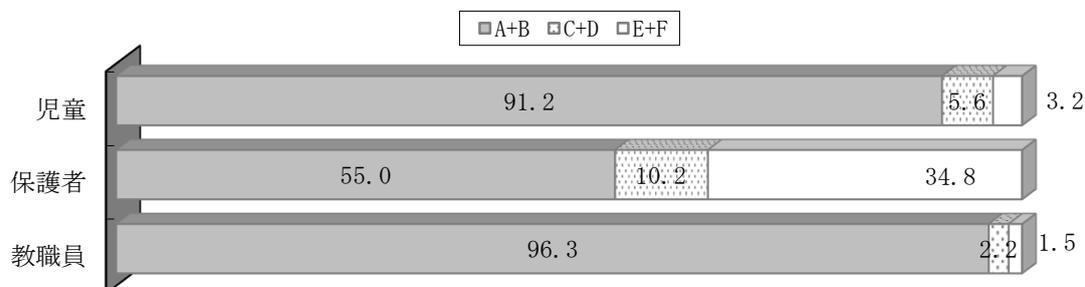
### [分析]

前年度比:児童+5.2%、保護者+1.6%、教職員+4.7%

三者とも肯定的回答が増加しており、全体として高水準を維持しているといえる。これは、日々の教職員の小さな努力の積み重ねの成果と考えられる。小学校においては、引き続き学級づくりを柱に規範意識を醸成すると同時に、特別の教科道徳を要として、豊かな人間性を育む授業改善等が求められる。

## 9. いじめ防止・対応について

- 児童 学校は、「いじめをしてはいけない」と教えてくれる。  
 保護者 学校は、いじめ防止や早期発見の取組を推進している。  
 教職員 学校は、いじめ防止や早期発見の取組を、組織的に行っている。



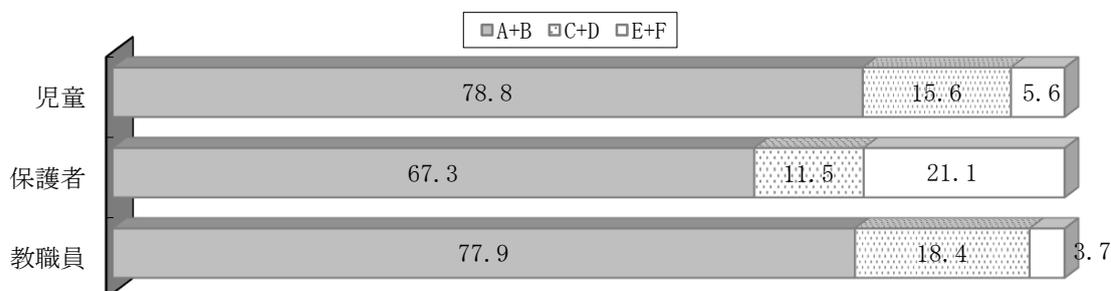
### [分析]

前年度比:児童+3.0%、保護者+4.6%、教職員-2.1%

昨年度同様、児童と教職員の肯定的な意見は、高い水準を維持している。学校がいじめに対する毅然とした姿勢や取組内容をより一層積極的に発言し、地域・保護者とも連携したいじめ防止や早期発見の取組を今後も共有していきたい。今後も、いじめ防止に大きな効果がある「より良い集団づくり」を推進していきたい。保護者の「わからない」の回答が高いことも課題であり、児童・教職員と保護者との肯定的な意見の割合が最も差が開いている項目となっている。

## 10. 「食の教育」について

- 児童 学校では、「食」の大切さについて、考える機会がある。  
 保護者 学校では、「食育」についての取組を推進している。  
 教職員 学校では、「食育」についての取組を組織的に行っている。



### [分析]

前年度比:児童-8.8%、保護者-3.1%、教職員+8.0%

三者とも高い数値となっているが、昨年度から児童と保護者の肯定的回答が低くなっている。学校給食や家庭科及び社会科の時間を中心に、「食」の大切さや「命」の大切さ、そして、地産地消の重要性などについて学ぶ機会を多くつくりたい。保護者には、献立等を通して学校における「食育」を発信し、教職員に対しても給食の時間を教育の場と捉えるよう促していきたい。

※昨年度まで質問事項としてあった「保護者や地域との連携について」は、今年度新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で学校行事などを中止したため、質問項目から削除しております。